

防災情報の入手は、 TV、ラジオ、インターネット、携帯電話から!

① NHKの地デジデータ放送で河川防災情報

●「d」ボタンを押して、

●河川水位情報で近くの川の

リモコンの上下ボタンを押して、どんな情報を見ることができるかやってみてね!

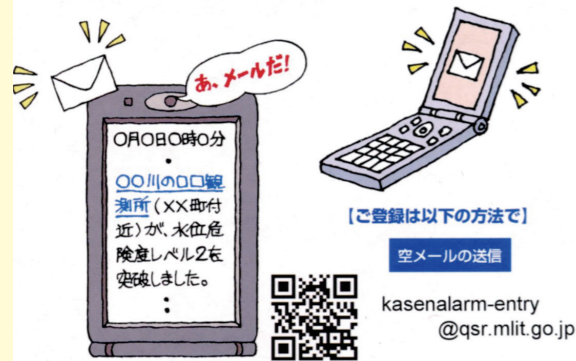


② 河川情報アラームメール (携帯電話)

●雨量・水位情報を携帯メールでお知らせします。

河川情報アラームメール

携帯電話



③ 川の防災情報 (携帯電話・パソコン)



④ ナックス (パソコン)

●長崎県内の雨量や水位、土砂災害の情報がわかります。

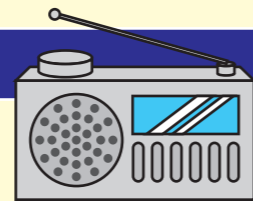
提供している情報

- 雨量
- 水位
- 土砂災害情報
- 注意報・警報に関する情報 など



⑤ ラジオ

●大きな災害がおきたときなど、いろいろな防災情報が入手できます。



■ 問合せ先 ■

国土交通省九州地方整備局 長崎河川国道事務所調査第一課調査係

〒851-0121 長崎市宿町 316 番地 1 Tel.095-839-9859 Fax.095-839-9353

災害って何?



危険ポイントは、どんな場所が危ないの?



避難するときの注意点は?



大切ないのちを守るために、災害に備える力を身につける!

みんなで作ろう

防災マップ



ぼくらの本町周辺防災マップ



国土交通省長崎河川国道事務所

自然災害から、大切ないのちを守るために。

子どもたちが走って逃げている右の写真。平成23年3月11日、東北地方に大きな被害を与えた巨大な津波から身の安全を守るために避難しているようすです。

このとき子供たちは、ひごろから訓練して身につけていた災害時の心得に従って、より安全な場所に自主的に逃げることで、いのちを守ることができました。

「釜石の奇跡」として、新聞やテレビで紹介されたこのエピソードは、水害や地震、津波などの自然災害から大事ないのちを守るために、何が大切かを教えています。それは、ひごろから災害に備える力を身につけておく、ということです。

この冊子では、「災害」や「避難場所」、また「災害発生時の危険」などを理解しながら、「防災マップ」を作る手順や方法を紹介します。

自然災害からかけがえのないいのちを守るために、みなさんも「防災マップ」作りをとおして災害に備える力をしっかり身につけてください。



津波にのみこまれないように高い場所に逃げる子供たち
(写真：鶴住居地区住民撮影、片田研究室提供)

ぼく、長崎マモル。小学5年生。災害からのちを守るための力を身につけよう、って言われても、どうしたらいいの？だれか教えてくれないかな？

大丈夫だよ、マモル君。わからないことは、何でも「防災博士」の私に聞いてごらん。災害に備えるために知ってほしいことがたくさんあるから、この冊子を使って博士といっしょに勉強しよう。



■ 災害を知る P4~

災害とは何か、どんな種類があるかを理解しよう。

■ 避難の大切さを知る P6~

災害からのちを守るポイントは、「避難すること」です。

■ 避難するために大切なこと P8~

避難するために知っておくことがあります。

■ 災害時の危険を知る P10~

災害時にはどんなことが危険かを知っておくことも大切です。

■ 防災マップを作る① P12~

身のまわりにある危険を調べて、防災マップを作ろう。そのために準備しておくことはどんなこと。

■ 防災マップを作る② P14~

実際に自分たちで調べたり、人に聞いて危険情報を集める。

■ 防災マップを作る③ P16

マップ作りで必要なものは、それをそろえる方法を確認しよう。

■ 「災害時の身の守り方」のポイント P17

災害時に身を守るために大切なことを、もう一度確認しよう。

□ 防災マップ用アイコンシール&防災グッズ P18~

アイコンシールは、マップ作りに役立ててください。また、避難するときに必要なものを確認しよう。

1 災害を知る

災害っていったい何だろう？

大雨がふって道路や家が水でつかったり、地震がおきて、家がこわれたり…。

このように人間に害をあたえることを「災害」といいます。長崎や九州では、これまでにいろいろな災害がおきています。

ここでの
学習の目標

- ・災害の意味を理解する。
- ・災害にはいろいろあることを、理解する。
- ・これまでに起こった災害を知る。

●災害には、いろいろな種類があります。

大雨がふる、強い風がふく、地面がゆれる。こうした自然現象が原因でおきる災害は「自然災害」と呼ばれます。

自然災害には、いろいろな種類があり、人に与える被害も同じではありません。

大雨

- ・家が水浸しになる
- ・道路がこわれる
- ・ガケや山がくずれる
- ・人が流される など

台風

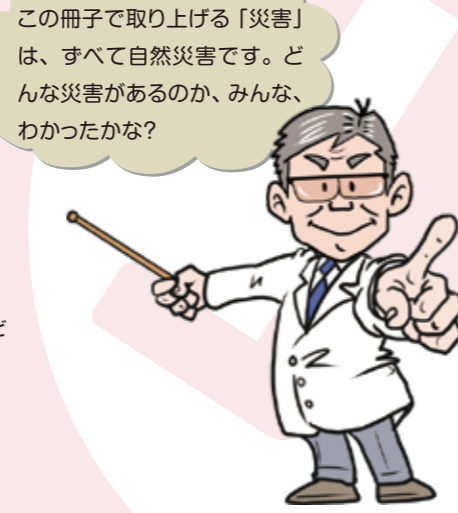
- ・大雨をふらせる
- ・電線が切れ、停電する
- ・物が当たり、人がケガする
- ・街路樹がたおれる など

地震・津波

- ・家や道路がこわれる
- ・物がたおれてケガする
- ・家が流される
- ・人が流される など

火山噴火

- ・火山灰で作物が育たなくなる
- ・火山灰で体調が悪くなる
- ・火砕流で家が燃やされる など



●大雨や台風による災害

大雨 諫早大水害

1957年
長崎県諫早市を中心に発生

おもな被害 (長崎県全体)

- ・死者・行方不明者：781人
- ・1時間雨量：133mm



川がはらんして、こわれた橋や家



まち中に流れこんだ水でこわされた建物

大雨 長崎大水害

1982年
長崎県長崎市を中心に発生

おもな被害 (長崎県全体)

- ・死者・行方不明者：299人
- ・1時間雨量：187mm



激しい流れでこわされた道路 (写真：長崎県河川課提供)



大雨でこわれた道路の穴に落ちた車 (写真：長崎県河川課提供)

大雨 平成24年7月九州北部豪雨災害

2012年
九州北部で発生

おもな被害 (福岡県、熊本県、大分県)

- ・死者・行方不明者：34人
- ・1時間雨量：124mm



川がはらんしてこわれた家



山の斜面がくずれたようす

●地震や津波による災害

地震・津波 阪神・淡路大震災

1995年
兵庫県を中心に発生

おもな被害

- ・死者：6,434人
- ・ケガした人：437,921人



大きなゆれでこわれたビル (写真：災害写真データベース提供)



こわれた高速道路 (写真：西宮市災害写真情報館提供)

地震・津波 福岡県西方沖地震災害

2005年
福岡県福岡市で発生

おもな被害

- ・死者：1人
- ・ケガした人：1,204人



大きなゆれでこわれたたくさんの家 (写真：福岡市提供)



レンガや石積みがかずれこわれた塀 (写真：福岡市提供)

地震・津波 東日本大震災

2011年
東北地方中心に発生

おもな被害 (2013.2.20現在)

- ・死者・行方不明者：18,574人
- ・ケガした人：6,135人



津波で水につかった学校の校舎 (写真：片田研究室提供)



津波でこわれた建物

●火山噴火による災害

火山噴火 雲仙・普賢岳噴火災害

1991年
島原半島で発生

おもな被害

- ・死者・行方不明者：44人
- ・こわれた家：796戸



山の斜面を流れおりの火砕流 (写真：島原市提供)



火砕流が流れこんでこわれた家 (写真：島原市提供)



2 避難の大切さを知る

災害がおこったとき、自分で考えて避難して、助かった人たちがいます。

ここでの
学習の目標

・災害時に避難することで助かった人がいること、避難することが身を守るためにとても大切であることを理解する

災害がおきたとき、自分の身の安全を守るために、大切なことはなんですか。それは、危険な場所から避難することです。

実際に災害がおきたとき、危険な場所から逃げることで、いのちが助かった人がたくさんいます。

平成24年7月 九州北部豪雨災害

■大分県日田市吹上地区

日田市では、これまでに経験したことのない雨がふって、人が死んだり、1000戸をこえる家が水につかったり、こわれたりする大きな被害が発生しました。



水につかった家や道路

そのとき、 地元の人たちがとった行動は!

①川があふれ出した ↓ 近くの避難所に避難

■近くの川があふれて
自宅が水びたしになったので、
自治会の人を中心になって
近くの避難場所に移動させました。



黄色の道(—)を通して避難

②避難所も危なくなってきた ↓ さらに安全な避難所に移動

■まちに流れ込む水の量が
どんどん増えて、
さらに危険になったため、
自治会の人たちが、安全なルートを通り、
より高いところにある避難場所
に住民を移動させました。



赤色の道(—)を通して避難

●身の安全を守ることができたポイント

・地元の人が、いまいる場所が危険だと気づいて、自分たちで考え、より安全な避難場所に移動したこと。

平成24年7月 九州北部豪雨災害

■熊本県阿蘇市坂梨地区

阿蘇市では、大量の雨がふったため、あちこちで山の斜面がくずれ「土砂災害」が発生。多くの人が死んだり、たくさんの方が家がこわれたりしました。

そのとき、 地元の人たちがとった行動は!

Aさんの例

(市役所からの情報を聞いて避難)

■市役所からくりかえし出される防災情報を聞いて、裏山がくずれれるかとも思い、家族を自宅から安全な場所へ避難させた。その結果、その後に発生した土砂災害から家族を守ることができた。

Bさんの例

(自分の判断で避難)

■防災情報をまったく入手できていなかったが、近くで水が流れる音が気になって眠れなかった。朝6時前、家の上の方のガケがくずれようが見えたため、すぐとなりの方に避難。その後、土石流で家が全部こわれたが、前もって避難したので助かった。

●身の安全を守ることができたポイント

- ・防災情報などを参考に、山の斜面がくずれれるかもしれないと考えたこと。
- ・雨や水の音を聞いて、災害が起こるかもしれないと思ったこと。



いのちが助かった人に共通していることは、まわりのようすを見ながら早め早めに避難をしていることだね。避難することの大切さがわかったかな。



山がくずれて流れおちてきた大量の土砂



大量の土砂でこわれた家

3 避難するために大切なこと

いのちを守るため前もって避難する場所や道順を確認しておく。

ここでの
学習の目標

- ・避難場所を確認する方法を理解する
- ・避難場所へ安全に行くための注意点を知る

では、危ない場所から逃げるために必要なことは何でしょうか。

それは、前もって避難する場所や安全に避難するための道順を確かめておくことです。

●避難場所を確認しておく

みんなが住んでいるまちには、いろいろなところに避難場所があります。どこが避難場所になっているかを、自分たちで確認しよう。

確認する方法

①市や町、県のホームページ

市や町、県のホームページ内で「避難場所」と入力して調べてみよう。



長崎県のホームページ

②ハザードマップ(※)

ハザードマップには、避難場所も書いてあります。



諫早市のハザードマップ

※大雨や津波などによる被害をあらかじめ予想し、被害の範囲などを地図で示したものです。

③市や町の担当者に聞く

直接、市役所や町役場に行くか、電話をかけて質問すれば教えてもらえます。



●避難するルートを決めておく

避難場所を確認したら、そこに行くためのルートを決めよう。

ポイントは、どこを通れば安全に、そして確実にたどりつけるか、だよ。

こんなところは
危ないから、
注意しよう

■大雨・台風のとき

・水によくつかかる道路 ・ふたがない側溝 ・植木鉢が置かれたブロック塀 ・くずれそうなガケ など

■地震・津波のとき

・たおれてきそうな塀 ・くずれそうなガケ ・ガラス窓のビルの下 ・低い土地

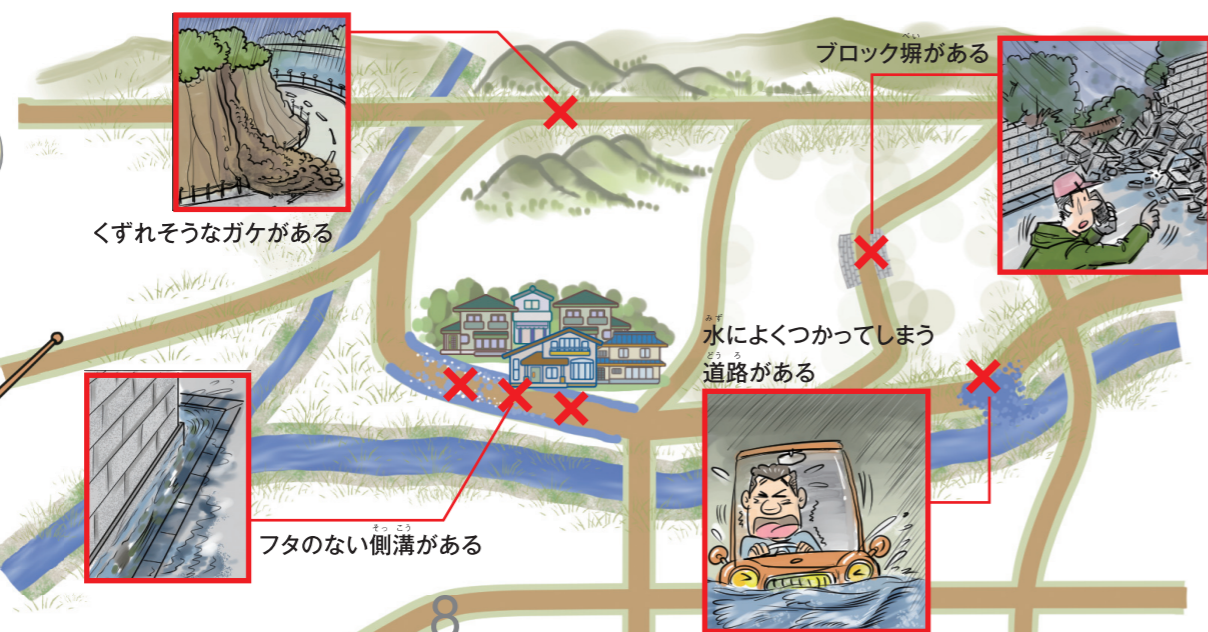
■日頃から気をつける場所

・あぶない交差点 ・せまい道路

長崎県内には約2万もの土砂災害危険箇所があるから、とくにがけくずれは要注意だよ。



避難場所に行くためのルートはいっぱいあるから、どのルートがいちばん安全なのかをしっかりと考えて決めよう。



注意 ポイント

避難しているときに、大変な事故がおこったこともあります。

平成21年8月、兵庫県では大雨のため川があふれて、安全な避難場所へ逃げる途中、まちがって道路横の水路に落ちて、6人が死んでしまうという悲しい事故がおきました。

写真：気象災害画像データベース作成委員会提供



事故がおこった水路は、普段は水の量も少なく、あやまって落ちるような場所ではありません。

(※写真はCG加工したものです)



事故がおきたときは、どこが道路か水路なのか、わからない状況でした。

(※写真はCG加工したものです)

●水につかった道路を通るときは、こんなことに気をつけよう

水がなく、道路のようすがよくわかる普段の道路を逃げる場合と違い、注意しないと危険なことがたくさんあります。



■はきものは運動靴

長靴は、水かさが深くと水が入って歩きにくくなるため、運動靴が最適です。



■カサや棒で前を確認して

水の中にある危険を、カサや棒などで確かめながら注意して進みましょう。



■水深はヒザの高さまで

歩ける水の深さはヒザの高さまでが限度。流れが速いと20cmの深さでも危険です。

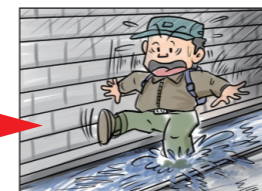
■みんながロープでつながって

水に流されてはくれないように、子供やお年寄りにはロープなどでつながり避難しよう。



●知っていますか、大雨のときは、こんな場所にも思わぬ危険が!

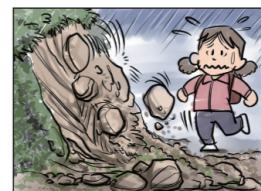
「エッ、こんな場所が」と思うところにも危険が!



道路横の溝などは、水の流れが早くなり危険です。



川の上流では水かさの変化が激しく、中州に取り残される場合があります。



ガケの近くは、水分をふくんだ土砂がくずれ落ちる危険があります。

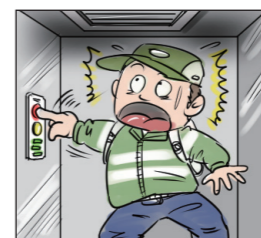


水かさが増した川にかかる橋は、とても危険です。

地下は、とくに危ないから注意して!



地上が水につかると、地下室へも水が流れ込んできます。



地下が水につかると、電灯が消え、エレベーターも使えません。



水につかった地下では、水圧でドアが開かなくなります。



喚起口や明り取りの窓など、思わぬ場所から水が流れ込んできます。

4 災害時の危険を知る

もしものとき、いのちを守るために、危ない場所を知っておく。

災害がおきたとき、大切ないのちを守るために重要なことは、危ない場所を、前もって知っておくこと、そして危ない場所には、絶対に近づかないことです。

ここでの
学習の目標

大雨や台風・地震など、もしものとき、どんな場所が危険なのかを理解する。

●大雨や台風、地震などのもしものときには、いろいろなところが危険ポイントに!

いろいろな災害から身の安全を守るためのポイントは、どこに、どんな危険があるかを知っておくこと。どんな危険があるか、みんなでしっかり確認しておこう。



大雨のとき、注意した方がいい場所



※雨がふっていないとき

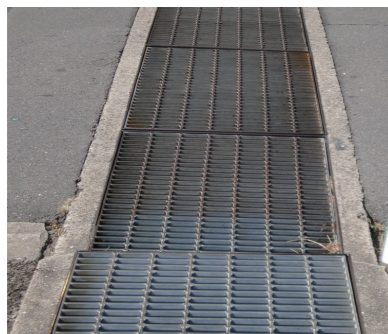


※大雨で道路が水につかったとき

- 水につかりやすい道路
➡落ちて水に流される



- フタのない側溝
➡落ちて流される



- 固定されていないフタ
➡落ちて水に流される



- 急な坂道
➡流れてくる水に足をとられる



- くずれそうなガケ
➡くずれた土砂にうまれる



台風の時、注意した方がいいこと



(写真:奄美新聞社提供)

- 強い風が吹いている
➡建物がこわされる



(写真:奄美新聞社提供)

- 物が飛んでくる
➡飛んできた物でケガする



(写真:奄美新聞社提供)

- 信号機が折れる
➡落ちてきた信号機でケガする

外に出たらこんな危険があるから、台風の時、外に出ないことが大切だよ。



地震や津波のとき、注意した方がいいこと

外では



(写真:福岡市提供)

- ブロック塀
➡塀がたおれてケガする



(写真:福岡市提供)

- くずれやすいガケ
➡ガケがくずれてケガする



(写真:福岡市提供)

- 上からの落下物
➡割れたガラスでケガする



(写真:岩手県建設業組合提供)

- 低い土地
➡津波にのみこまれる



建物の中では

- 棚やロッカー
➡たおれてケガする

大雨や地震などのときは、危険ポイントに近づかないことが大切だよ。



危険ポイントは、ボクの身の周りにも、いろいろあるんだね。

●まち歩きでは、安全ポイントもいっしょにチェックしよう!

身の安全を守るためには、安全な場所を知っておくことも重要です。

おすすめの安全ポイント

- ・避難場所 ・広い場所 ・高い場所 ・外灯(安全灯) ・公衆電話 など



- 上から物が落ちてこない広い場所



- 避難場所



- 津波がこない高い場所

危険ポイント、安全ポイントを調べる。

いのちを守るために知ってほしい危険な場所や安全な場所は、みなさんがくらすまちでは、どんなところにあるでしょうか。ここでは実際にまちなちに出かけたり、いろいろな人に聞いたりして調べてみよう。

ここでの学習の目標
 ・自分で見たり聞いたりして、危険な場所と安全な場所を確認する。

●いろいろな方法で、ポイントを調べる

ここで大切なことは、自分たちの身のまわりにある危険ポイントと安全ポイントを、自分の力でしっかりチェックすることです。さあ、みんなでチャレンジ!

①まち中を歩きまわって!

※まち歩きするときは、交通事故に注意し、まちの人に迷惑をかけないようにしよう



①ポイントをさがす

危険と安全のポイントを見つける



②ポイントの写真を撮る

ポイントのNOカードといっしょに写真を撮影する



③ポイントを地図に記入

見つけたポイントをわすれないように地図に書き込む

●ポイントや気づきは、このように記入しよう!

ポイントの記入例

・チェックしたポイントの場所を、番号をつけて記入する



気づきの記入例

・チェックしたポイントの名前を記入する

ポイント名	気づいたこと
みぞ②	固定していないのではずれて危ない
③消火せん	
①段さ	

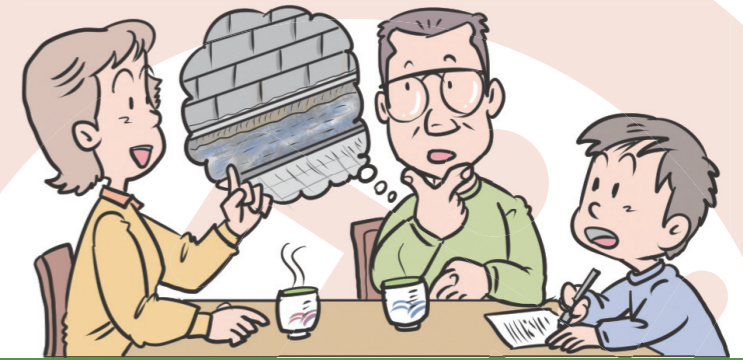
・ポイントがどうして危険か安全かの理由を記入する

②いろいろな人に質問をして

みなさんのまわりには、災害を体験したり、まちのことに詳しい人がたくさんいます。前もって質問内容を整理してから、いろいろ質問してみよう。

■家の人に聞いてみる

お父さんやお母さんなどに仕事や買い物に出かける時に、危険だと感じた場所や危険・注意のマークを見たことがないか、聞いてみよう。



■自治会や地域の人に質問する

自治会や地域の人に、これまでに大雨や台風などのときに、危ないと思った場所がないか質問してみよう。



うまく調べることができるかな……。いろいろ難しそうだし……。



調べるポイントについては、P10～P11で紹介した危険ポイント、安全ポイントを参考にして「家の人に聞いてみる」だけでもやってみよう。



まち歩きの前に、役割分担を決めよう

■係の名前	■受け持つ作業・役割
・チームのリーダー	・チェック内容に抜けがないかを確認する ・持っていく備品を確認する
・地図記入係	・チェックポイントを地図に記入する
・Noカード持ち係	・写真撮影の時、Noカードを持っていっしょに映る
・記録写真係	・チェックポイントごとに記録写真を撮影する
・チェックシート記入係	・チェックした内容をシートに記入する

調べた情報を、地図に書き入れる。

ここからは、調べた情報を地図に書き込んで、避難場所や避難するルート、まち中にある危険ポイントなどがわかる「防災マップ」を作り上げる作業だよ。さあ手分けして始めよう。

ここでの学習の目標
 ・調べた情報を地図に書いて、防災マップを完成させる。

●まち歩きや人に聞いて調べたことを、整理して地図にまとめる。

ここで大切なことは、自分たちの身のまわりにある危険ポイントと安全ポイントを、自分の力でしっかりチェックすることです。さあ、みんなでチャレンジ!

「防災マップ」完成までの手順



①まち歩きのコースを記入

まち歩きで移動した道を、よくわかるように書き込む。

道路の線は、太く、濃く書いてはっきりわかるように!



②チェックポイント番号を記入

まち歩きでチェックした場所の番号を書き込む。

記入する位置をまちがえないように!



③調べた内容を付せんに記入

まち歩きや人に聞いて調べたことを付せんに書く。

危険ポイントは赤、安全ポイントは青、それ以外は黄と気づきの内容別に付せんの色を変えよう!



④写真を出力する

チェックポイントごとに撮影した写真を、紙に出力する。

1枚の写真のサイズが大きくなりないように注意を!



⑤付せんと写真を地図の上に置く

付せんと写真を、それぞれのチェックポイントに置く。次に見やすさを考え、はる場所を考える。

チェックポイントが近い場所は、とくにはり方に工夫が必要だよ!



⑥付せんと写真を地図にはる

はる場所が決まったら、付せんと写真を地図にはる。



⑦地図用のマークをはる

避難場所、学校、危険な場所などのマークのシールを、当てはまる場所にはる。

完成した「防災マップ」を使って、危険ポイント・安全ポイントを発表しよう!

発表するポイント

- ・どんな場所や施設を危険ポイントに選んだか
- ・どんな場所や施設を安全ポイントに選んだか
- ・情報を集めるために、どんな人に聞いたか
- ・「防災マップ」を作って、気づいたこと、わかった点



マップ作りに必要なものを準備する。

●準備するものを、整理してみよう。

まち歩き用



●白地図 (A3判)



●クリップボード (画板)



●チェックシート



●Noカード



●えんぴつ



●デジタルカメラ

防災マップ作成用



●白地図 (模造紙程度の大きさ)



●マジックペン (マーカー)



●付せん (赤・黄・青)

白地図の準備は、こんな方法で！
インターネットで入手
 地図は、住宅地図や都市計画図などが使用できます。また、インターネットでも入手できます。
 (<http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse/index.html>)

- ①「電子国土 Web.NEXT」のホームページを開く。
- ②地図画面をそうさしながら入手したい地域の画面を表示したら、「印刷」ボタンを押して出力する。

災害がおきたとき、身を守るために大切なことを、もう一度確認しよう。

●災害から身を守るために

災害から身の安全を守るためのポイントを、ここでおさらいをしておきましょう。

身を守るために大切な“3つの知る”

- ①「災害」を知る
 ■大雨、台風、地震・津波などの自然現象がひきおこす災害にはいろいろな種類があり、人に与える被害やその規模もさまざまです。まずは「災害とは何か」をしっかり理解しよう。
- ②「避難」を知る
 ■災害から身を守るためには、危険な場所から安全な場所へ逃げるのが重要です。そのためにも避難する場所を確認し、そこへ逃げるための道順を知っておくことが大切です。
- ③「災害時におこる危険」を知る。
 ■ふだんは安全でも、大雨、台風、地震・津波などがおきたときは、いろいろな場所が危険ポイントになるので、どんな場所が危ないかを前もってしっかり確認しておこう。

大切なことは意識を高めることです。

気象情報をテレビやラジオで入手して、大雨警報がでたときは、「もしかしたら近くの川があふれるかもしれない」「もしかしたら土砂くずれがおきるかもしれない」と思えることが大切です。

気象情報は、大雨による危険のレベルを知る手がかり

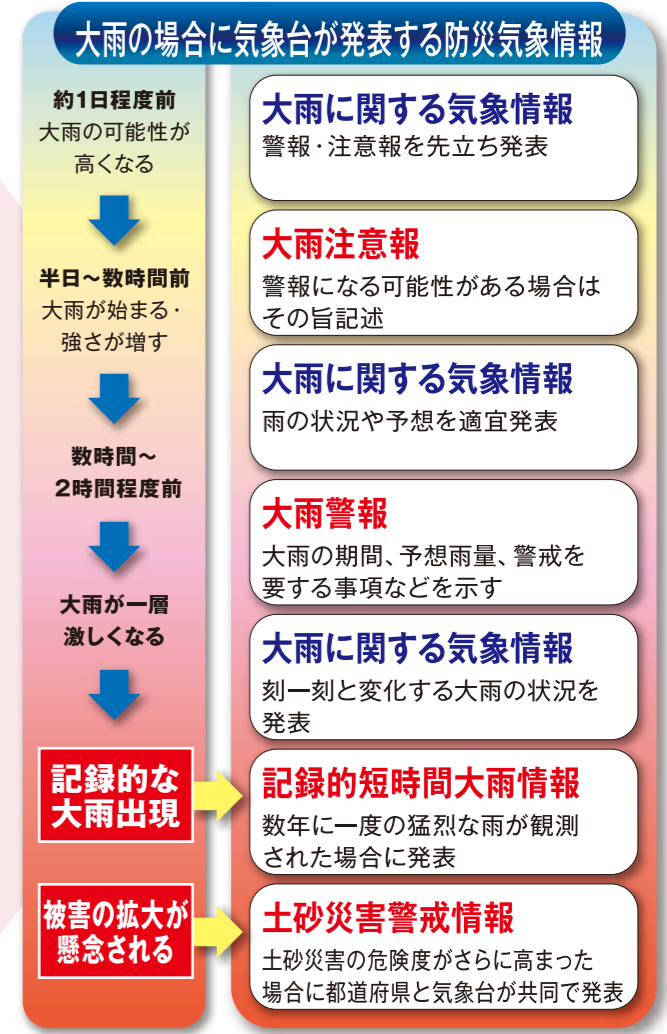
テレビやラジオで見たり、聞いたりする防災情報に「気象情報」があります。なかでも大雨の場合に気象台から出される気象情報は、雨のふり方に応じて内容が変わるので、その違いをしっかりと理解してください。

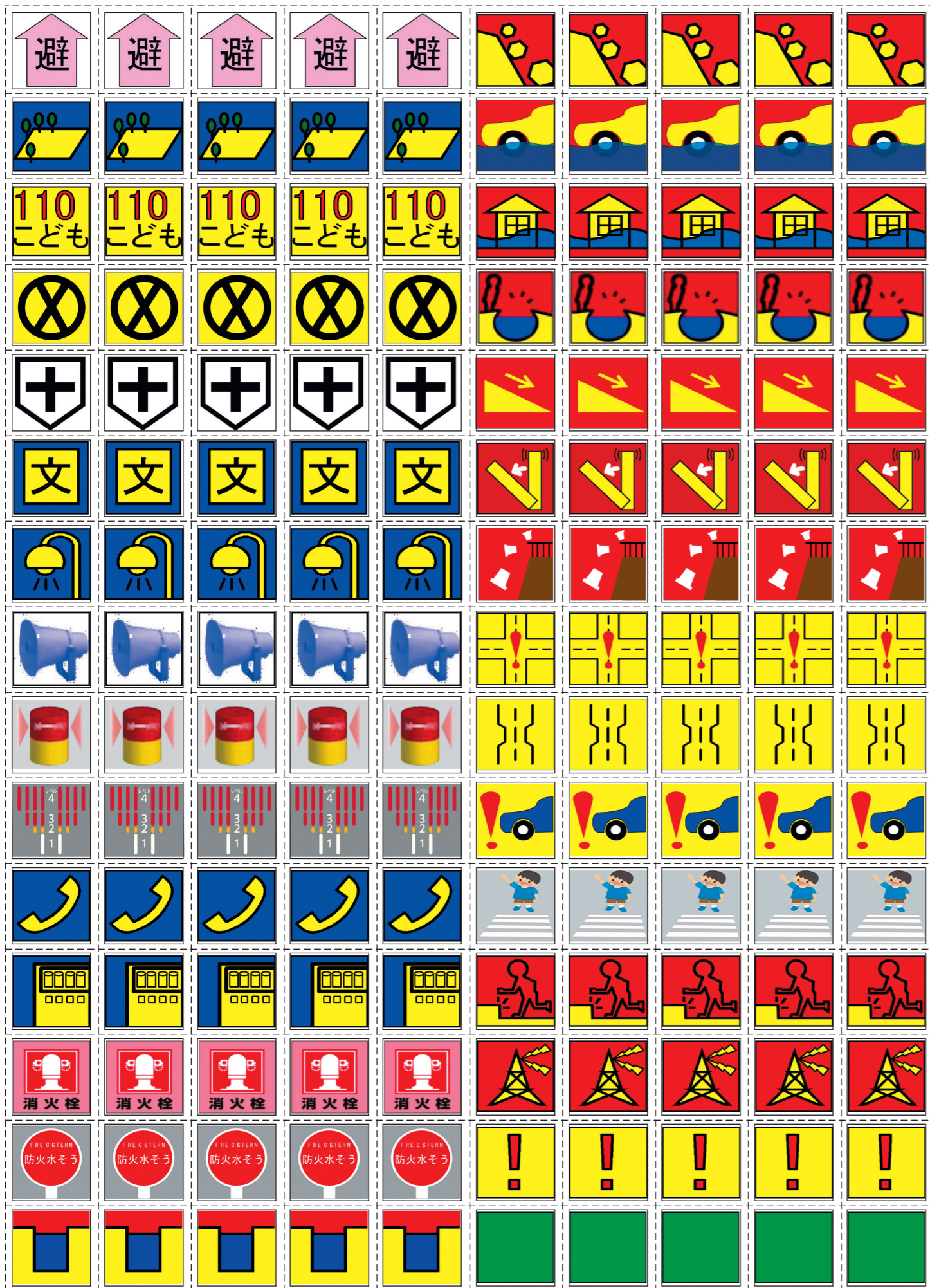
防災博士から、みなさんへのお願い！

■みなさんは、この冊子をとおして、災害時に身を守るためにはどんなことが大切か、どのようなことを知っておく必要があるかを学んできたと思います。災害から身を守るためには、「ひとりひとりが、自分で考え、行動に移す」ことが大切です。最後にもう一度、次のことを確認してください。

- ①校区内で指定された避難場所を確認する。
 - ②校区内の危険ポイントを調べる。
 - ③避難場所・避難ルートを決める。
 - ④避難のタイミングや避難方法を考える。
 - ⑤防災情報の入手の方法を確認する。
- ※NHKの地上デジタル放送や長崎県の防災情報だけでも確認してください。

大雨の場合に出される各種防災気象情報の発表のタイミング





●アイコンシール 凡例

ひなん場所	防犯灯	消火栓	ため池	車注意
広場	防犯スピーカー	防火水そう	急な坂道	信号のない横断歩道
110子ども	川の警告灯	深いみぞ	たおれそうなもの	段差
警察署 派出所	危険度レベル表示	がけ・地すべり注意	落下	高圧の電気
病院	公衆電話	水につかりやすい道路	危険な交差点	ケケン
学校	自動販売機	水につかりやすい場所	道路がせまい	その他

●避難するときに持っていく「非常用バッグ」に入れておく防災グッズを確認しよう。

○懐中電灯・携帯ラジオ

- こわれにくい懐中電灯
- FM・AMを聞ける小型ラジオ
- 予備の乾電池 (単一・単二など)

○飲料水・食べもの

- ペットボトル入りの水
- 乾パンや缶詰 (缶切りが不要なもの)
- ビスケットやチョコレートなどカロリーが高いもの
- 梅干しなど塩分補給ができるもの

○医薬品

- 救急セット (包帯・ばんそうこう・消毒液など)
- 持病のある人は常備薬

○お金・保険証

- 現金 (公衆電話や自動販売機等で使える小銭)
- 健康保険証・年金手帳などのコピー

○生活用品

- 大きめのビニール袋
- 着火ライター (予備含め2本)
- 多機能ナイフ
- ティッシュペーパー・ウエットティッシュ
- タオル・歯磨きなどの洗面具
- 下着・肌着・靴下など (厚手のもの)
- 新聞紙
- 筆記用具
- 生理用品 (女性は必需品)
- 高齢者用介護用品

非常用バッグは、できれば家族それぞれの分を準備しておくといいよ。

